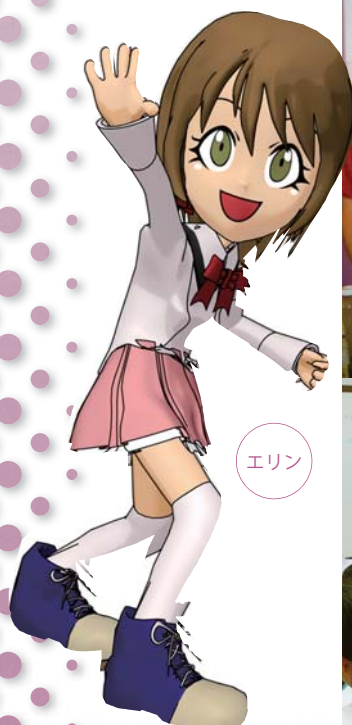


海外における日本語教育

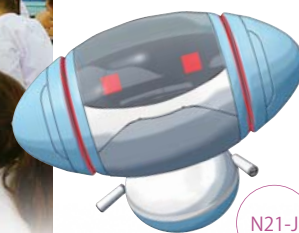
◎ Japanese Language Education Overseas



エリン



ホニゴン



N21-J

ジャパンファウンデーションの実施した調査によると、
現在、世界では300万名にのぼる人々が日本語を学んでいます。
そして、その数は、この30年間で20数倍にも増えています。
テレビ、ラジオの日本語講座や個人教授等で学ぶ人たちを含めれば、
その数はさらに多くなるはずです。
ジャパンファウンデーションは、今までの蓄積に加え、これからもさまざまな施策を通じ、
日本語教育の質・量両面における発展をより強力にリードしていきます。
それが世界の人々のより深い日本理解と、
私たち自身も含めた多文化共生社会への取り組みになるからです。

第48回「外国人による日本語弁論大会」を開催

2007年5月26日に、大阪府泉佐野市において、第48回『外国人による日本語弁論大会—関西国際センター設立10周年記念—』を実施しました。ジャパンファウンデーション、財国際教育振興会、財大阪府国際交流財団、泉佐野市の共催で、高円宮妃殿下御臨席のもと、800名を超える人が来場しました。28の国と地域、111名の応募の中から選ばれた12名が出場し、異文化体験や国際交流等さまざまなテーマについて流暢な日本語でスピーチを行いました。大会の様子は、後日、NHK教育テレビでも放映されました。



外務大臣賞・大阪府知事賞のキム ヨハン氏(左)、文部科学大臣奨励賞のイゼファン氏(右)

『海外の日本語教育の現状＝日本語教育機関調査・2006年＝』を刊行

海外の日本語学習者は133カ国・地域の298万名

全世界を対象に調査を実施

ジャパンファウンデーションは、世界の日本語教育の現状を正確に把握し、今後の日本語教育の施策に活用するために、数年おきに全世界を対象とした「海外日本語教育機関調査」を実施しています。調査は、海外の日本語教育機関へ調査アンケートを配布し、回答を返信してもらう方法で行われました。世界中の日本語教育機関から回収したデータは、2万2千件にのぼります。このような全世界を対象にした類似の調査は、ほかに例がなく、まさに世界で唯一の日本語教育機関調査として、国内外の研究者、日本語関係機関や国際交流団体に、貴重な資料として利用されています。

2006年度（2006年11月～2007年3月）に実施した調査の集計結果を『海外の日本語教育の現状＝日本語教育機関調査・2006年＝』にまとめ、刊行しました。刊行物は、結果と分析の要点をまとめた「概要」と、より詳細な集計資料を掲載した「本冊」の2分冊構成になっています。2冊とも株式会社凡人社より市販されています（「概要」は日本語版および英語版があり、定価各300円（税込）、「本冊」は日本語のみで、定価2,000円（税込））。

また、ホームページでも「概要」の調査結果、個別機関の一覧等を掲載しています（<http://www.jpff.go.jp/j/japanese/survey/result/index.html>）。

学習者数は前回調査から増加

今回の調査では、2006年現在、海外の126カ国と7地域で日本語教育が行われ、およそ298万名が日本語を学習していることが明らかになりました。これは現在、機関に所属して日本語を学習している人の数ですので、テレビやラジオの日本語講座、インターネットや個人教授による学習者を入れると、実際数はさらに多くなると推測されます。2003年に実施した前回の調査に比べると、学習者数は26.4%増加しています。

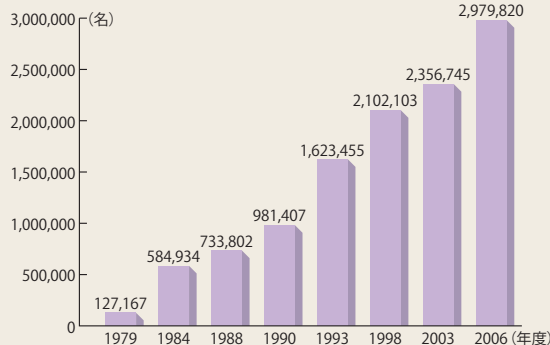
学習者数を国別に見ると、最も多いのは、韓国(91万名)、続いて、中国(68万名)、オーストラリア(37万名)で、アジア・太平洋の学習者が、全体の9割を占めています。特にインドネシア、インド等、東南アジア・南アジアでの増加が大きく、教育制度の変革や経済関係の深まりが背景にあると見られます。

※日本語教育の特徴は、各国・地域によって異なります。各国の日本語教育の状況はホームページに掲載しています（<http://www.jpff.go.jp/j/japanese/survey/country/index.html>）。

国別内訳

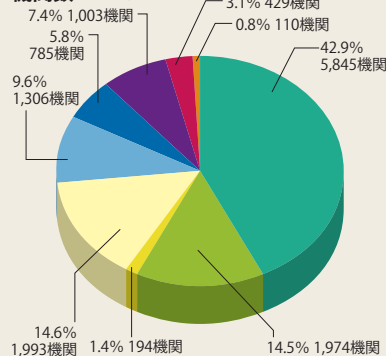
	国・地域	学習者数(名)	(%)
1	韓国	910,957	30.6%
2	中国	684,366	23.0%
3	オーストラリア	366,165	12.3%
4	インドネシア	272,719	9.2%
5	台湾	191,367	6.4%
6	米国	117,969	4.0%
7	その他	436,277	14.6%

日本語学習者数

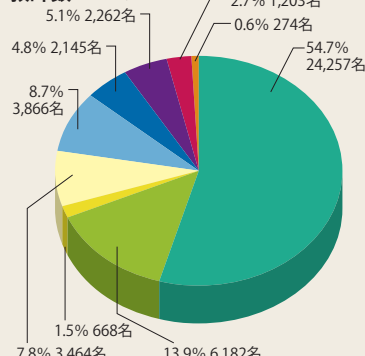


株式会社凡人社より販売。
2,000円

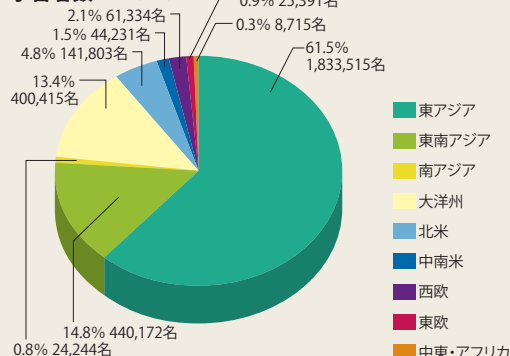
機関数(合計13,639機関)



教師数(合計44,321名)



学習者数(合計2,979,820名)



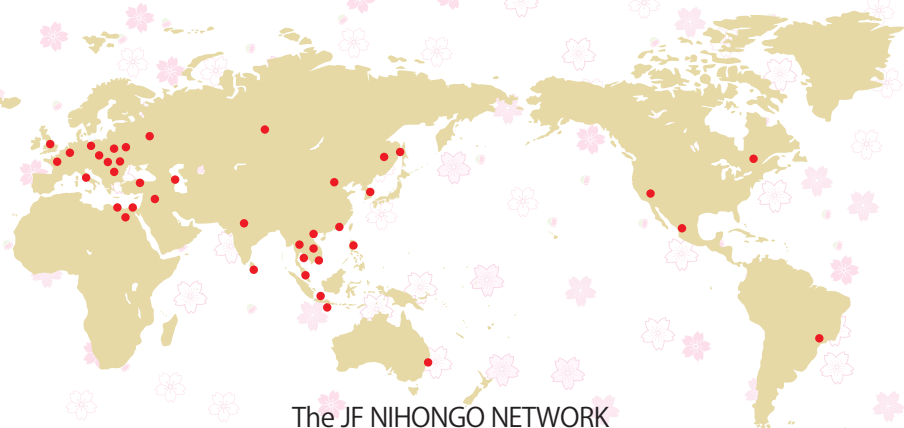
JFにほんごネットワーク(通称:さくらネットワーク)

海外日本語教育拠点の整備拡充を実現するため、国内外の基金事務所等に加え、当基金と支援・協力関係にある世界各地の中核的な日本語教育機関を構成メンバーとする「JFにほんごネットワーク」の構築を開始しました。

2008年3月末現在で、31カ国39メンバーですが、今後順次メンバーを増やし2010年までには100メンバーを目指しています。

ジャパンファウンデーションは、このネットワークの構成メンバーを、日本語普及の海外拠点と位置づけるとともに、多文化共生・多言語社会の国際的な広がりの中で、内外の関係者に日本語教育の有用

性をアピールし、各地における日本語教育のためのより効果的な支援獲得や環境整備を促進するためのネットワークとして位置づけていきます。ネットワークの名称は、2008年7月、公募により決定しました。



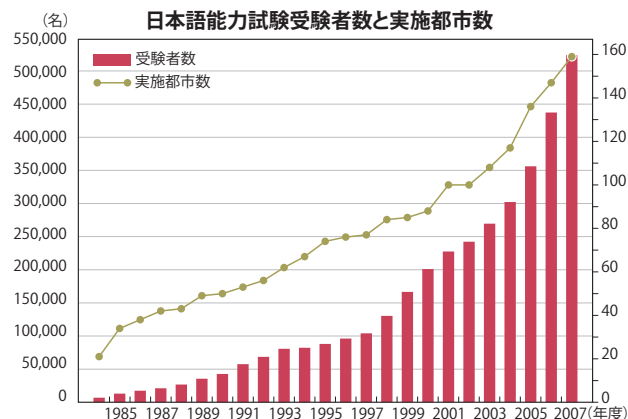
日本語能力試験

全世界50カ国・地域、159都市で、約52万名が受験

日本語能力試験は、日本語を母語としない人々を対象に、日本語能力を測定し、認定することを目的として、1984年度より、ジャパンファウンデーションが海外各地の試験実施団体との共催により実施しています(日本国内においては財団法人日本国際教育支援協会が、台湾においては財団法人交流協会が実施)。

日本語能力試験は、1級(900時間程度の学習レベル)、2級(600時間程度の学習レベル)、3級(300時間程度の学習レベル)、4級(150時間程度の学習レベル)の4つの級に区分されており、受験者は自己の日本語能力に適した級を受験することができます。各級とも「文字・語彙」、「聴解」、「読解・文法」の3科目から構成されています。

2007年度の日本語能力試験は、12月2日日曜日に全世



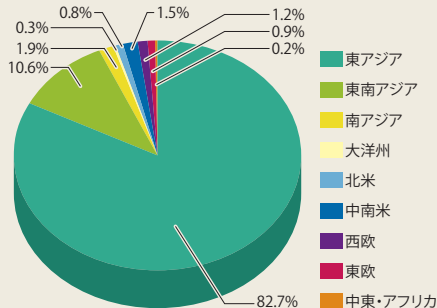
界一斉に実施されました。24回目となった今回、海外では49の国・地域、137都市において実施され、日本国内実施分(22都道府県)と併せた全体の応募者数は63万2千名、受験者数は52万3千名にのぼりました。

※日本語能力試験・公式サイト <http://www.jlpt.jp/>

2007年度 受験者数上位10カ国・地域

	国・地域	受験者数(名)
1	中国	202,712
2	韓国	82,323
3	<台湾>	55,802
4	<香港>	13,722
5	タイ	13,295
6	ベトナム	11,433
7	インドネシア	7,688
8	インド	5,932
9	シンガポール	4,166
10	ブラジル	3,346
	海外計	430,137
	日本国内	93,821

2007年度 受験者数地域別構成比(海外)



日本語教育専門家等の海外派遣と海外の日本語教育機関への助成

各国のジャパンファウンデーション事務所、教育省、中等・高等教育機関等に日本語教育専門家、日本語教育指導助手（後者はJFボランティア制度の一環）計112名を39カ国へ派遣。教師研修や授業の実施、カリキュラムや教材開発、教授法・教材制作への支援等を通し、日本語教育の普及・発展を図っています。

また、海外の日本語講座の講師謝金や日本語弁論大会

への助成、海外の日本語教育機関による日本語教育関係者向けのセミナーやワークショップへの助成等、側面支援策としての助成事業を行っています。より効果的・効率的な支援を行うため、派遣先ポストの配置、助成プログラムの編成等を随時見直ししながら、海外の日本語教育機関が抱える多彩なニーズに応えられるよう努めています。



アゼルバイジャン・パクー国立大学の日本語講座



日本語を学習する韓国の生徒たち

日本語教育専門家活動レポート

タイ：「あきこ」をとりまく仲間たち

（2007年「世界の日本語教育の現場から」より／バンコク日本文化センター儀満敏彦、松原潤、鈴木由美子）

タイの中学・高校の約8割で使用されている教科書『あきこと友だち』。タイの中等教育の教師、大学の教師、国際交流基金バンコク日本文化センターの日本語教育専門家とタイ人専任講師が協力して制作に携わり2004年に完成した教科書ですが、2007年には『あきこと友だち単語集』、『ひらがなアソシエーションカード』、『あきこと友だちテスト問題集』の3つの副教材ができました。完成を記念して行った『あきこと友だち』特別セミナーは、70名以上の教師が参加し大盛況でした。

『あきこと友だち単語集』では教科書に出てくる全ての語彙をアクセント記号つきで50音順に並べており、関連語彙等も加えられています。

『ひらがなアソシエーションカード』ではそれぞれのひらがなにタイ語から連想しやすい音や形を絵で表しています。『あきこと友だち』を使いたいけれど、ひらがな導入に時間がかかってしまうという現場の声に応えるべく開発されたもので、これなら高校生にも楽しく短期間でひらがなが覚えられると大好評でした。また、『あきこと友だちテスト問題集』はタイに派遣されている日本語教育専門家とJICA青年海外協力

隊員との共同プロジェクトにより完成したものです。

今後も「タイ人教師支援」「学習環境向上」「JICAとJFの情報ネットワーク作り」を目指して副教材開発プロジェクトを継続していきます。また、2006年に始めた高校で教える日本人教師のための「あきこ交流会」も続いています。どんどん増える「あきこ」の仲間と広がるネットワーク。ますます成長する「あきこ」の活躍にご期待ください。



蟻はタイ語で[mót]



『あきこと友だち単語集』

日本語国際センター

海外で活躍する日本語教育の指導者を養成

1989年7月に、ジャパンファウンデーションの附属機関として埼玉県さいたま市に設立されたセンターでは、海外日本語教師の研修、日本語教育の将来のリーダーとなる人材の養成、日本語教材の開発・制作支援・寄贈、日本語教育専門図書館運営等の事業を実施しています。

研修事業

3週間から3年の期間で、毎年50カ国を超える国や地域から約500名の海外の日本語教師がさまざまな研修に参加しています。

【日本語教育指導者養成プログラム（修士課程）

・日本言語文化研究プログラム（博士課程）】

日本語国際センターでは、政策研究大学院大学と国立国語研究所と連携して、2001（平成13）年より現職の外国人日本語教師が1年間で日本語教育学の修士号を取得することが出来る大学院修士プログラムを開始し、2007（平成19）年までに、18カ国53名の修士を養成してきました。また、2003（平成15）年からは、博士課程（3年間）を開始し、2008年3月現在、4カ国6名が在籍し、うち1名が本プログラム博士第1号として2008年3月に博士号（日本語教育研究）を取得しました。

修士プログラムの
修了生には、マレー
シアのアンさん(ANG,
Chooi Kean)のよう
に、マレーシアの教
育省国際言語教員養
成所で、中等教育の
日本語教師養成に携



授業風景（海外日本語教師長期研修）

わっている方、ミャンマーのモモサンさん(Momosan)とスーさん(Susuhtwe)のように、ヤンゴン外国語大学の日本語専攻の修士課程の設立準備中の方等、それぞれの国において、日本語教育のさらなる発展のために活躍されている方がたくさんいます。

第1回の博士号を取得された冷さんの言葉を紹介します。中国の日本語教育界においてますますのご活躍をされることを期待しています。

【博士課程修了生のことは：

冷麗敏さん(北京師範大学准教授)】

日本言語文化研究プログラム博士課程第一期生の冷麗敏です。2003年、博士課程に入学し、昨年（2007年）卒業しました。



2001年に中国の国家基礎教育（中等教育）改革にかかわる中で、次のような問題意識が生じていました。新しい教育理念としての「学習者の主体性を重視する」ことが、実際に教育現場では如何にして実現できるのか。この問題意識が後の博士課程で行った研究の動機となったわけです。このように中国の日本語教育が直面する現実的な課題をかかえて本プログラムに入りました。

私にとっては、本プログラムの第一期生として学んでいたことが光栄であり、人生の財産でもあります。博士論文の完成に至ったのは、指導教官の先生方をはじめ、三機関連携という体制の中で皆様に心強く、暖かく見守られたお陰だからと思っています。

現在、本務のある北京師範大学で引き続き教鞭をとっておりますが、博士論文の研究課題で得られた成果を中国の日本語教育現場に還元するよう頑張っております。そして、今後、中国の日本語教育のさらなる発展のために自分に何ができるのかを考えつつ、このプログラムで学んだことを活かし、さらに頑張っていきたい所存であります。

日本語国際センター図書館

約60カ国・地域で発行された日本語教科書から、分野・技能別の教材、日本語教授法、日本語教育シラバス、教室での活動集、各国語の日本語辞書、日本語教育や言語学に関する雑誌等、多岐にわたる蔵書を取り揃えた日本語教育専門図書館です。蔵書は約43,000点。うち日本語教育関係資料は約15,000点です。

どなたでも無料で資料の閲覧・視聴をすることができます。



関西国際センター

設立十周年を迎えて

海外での日本語学習者数の増加と、学習目的や動機が多様化に対応するために、1997年5月、大阪府泉南郡田尻町に設立された日本語研修施設「関西国際センター」は、十周年を迎えました。

研修事業

滞在型研修の利点を生かし、海外のさまざまな国の外交官・公務員や日本研究を行う若手研究者等を日本に招へいし、職務や研究に役立つ専門日本語の研修を行っているほか、海外の日本語学習者を奨励する日本語学習者訪日研修を実施しています。

また、地域における国際交流の推進のため、周辺地域の自治体、NPO等の機関と協力して、研修生と地域の人々とのさまざまな交流事業を実施しています。

外交官・公務員日本語研修

主にODA対象国の若手外交官を日本に招き、日本語と日本文化事情の研修を行っています。1981年の開始以来、修了生は500名近く、2007年には54名が在日公館に勤務、そのうち7名が大使を務めました。2007年度外交官・公務員日本語研修には、35名が参加しました。アフリカから5名、アジアから21名、中米やカリブから4名、ヨーロッパから3名、オセアニアから2名でした。

研修参加者の声を紹介します

平成19年度外交官・公務員日本語研修参加者の声
(2007年10月～2008年6月)



日本語教育シンポジウム

「ひらく・つなぐ・つくる 日本語教育の現場」

2008年3月8日、「日本語教育シンポジウム ひらく・つなぐ・つくる 日本語教育の現場」が開催されました。午前にはインターネット・サイト「日本語でケアナビ」開発を事例として、日本語教育、医療英語通訳・翻訳、ウェブデザイン、介護福祉等の専門家によるパネルディスカッションが行われました。午後の分科会では「地域にひらく」、「専門領域とつなぐ」、「インターネットでつくる」をテーマに、地域の方々と交えたワークショップや事例報告等、熱い討議が繰り広げられました。設立以来10年、多様な研修参加者との日本語教育実践を通じて関西国際センターにもたらされた「稔り」の一日でした。参加者からも高い評価を得ました。

『をちこち』23号に報告が掲載されています。



コースをひとこと言えば…

日本語の勉強は強い気持ちでなかったらできないと言われていますが、関西センターでの勉強は、そうではないことを見せてくれます。このコースでは、日本語の集中クラスを通して、多文化に囲まれた活気ある日本社会を経験するための、知的な旅へ船出することになります。日本人とのいろいろな社会活動の体験では、日本人の社交的で、生活の中へと溶け込ませる能力の高さに驚かされるでしょう。もちろん、この経験は日本の言語や文化、社会についてのすべてではありませんが、異なった文化やバックグラウンドを持った人々と交流し、関係を築く、生涯に一度のチャンスなのです。

魅惑的な日本文化

日本語の勉強と日本の文化を経験することはとても結び付いています。関西センターでは、千年続く日本の伝統、視覚芸術であれ、パフォーマンスアートであれ、服装であれ、それが日本の生活の中でとても大きい役割を果たしていることを示すために、とてもエキサイティングな文化プログラムを運営しています。茶道や書道の形式と奥深さを楽しむだけではなく、日本の伝統的な劇場の素晴らしい上演、例えば能や狂言、歌舞伎、文楽等を見ることが出来ます。また、スポーツ好きな人は合気柔術や剣道をやってみてもいいでしょう。もちろん、相撲見学もあります。そのほか、自分で研究旅行を計画することもできますし、日本料理を味わう機会もたくさんあります。

『DVDで学ぶ日本語 エリンが挑戦! にほんごできます。』

マンガやアニメ等、クールな日本文化に惹かれて日本語を学ぶ若い世代の学習者を対象とした映像教材(全3巻のDVD教材)です。若手人気タレントを起用したミニドラマ、アニメキャラクターの説明に加え、テキストにはマンガを採用。今までの日本語教材にない親しみやすさが受けています。本教材は、外国人が、日本で出会うさまざまな場面で自信を持って日本語を使えるよう工夫された内容になっており、日本の日常生活を伝える何気ない映像の中に、伝統文化、最新の流行、生活習慣がちりばめられ、それらを初めて体験する留学生のエリンを追ううち、異文化、多文化への視野も広がります。また日本人にとっても外国の方に日本や日本語を紹介するヒントがみつ

ています。2006年10月からNHK教育テレビやNHKワールド等で放映され、話題を呼び、モンゴル、ハワイ(米国)、カナダ等世界各地のテレビ局でも放映中です。



「レアリア・生教材」コレクションCD-ROMブック発売

本書は、2006年度に発行した『日本語教師必携 すぐに使える「レアリア・生教材」アイデア帖』(以下、『アイデア帖』)の姉妹版です。「レアリア」とは教育のためにわざわざ作られたものではない「本当の物」という意味で、『アイデア帖』ではそれを教育の現場で利用する方法を紹介しました。本書には、食品や薬品のパッケージ、メニュー、雑誌記事、新聞記事、写真、動画等、『アイデア帖』の内容に沿った約500点の「レアリア・生教材」が入っています。これをコンピュータ上で表示・再生したり、印刷したりすることによって、本物の「レアリア・生教材」に近い資料を得ることができます。特に海外の日本語教育現場にとって貴重な資料が満載です。

2008年3月に、静岡の『日本語ボランティアセミナー

2008』で紹介したほか、その後もワークショップを実施しています。



(株)スリーエーネットワークより販売。3,150円

Eラーニング開発事業 ～日本語でケアナビ～

「日本語でケアナビ」は、日本で看護・介護の専門職として就労することを目的とする日本語学習者のために制作さ



れた和英・英和辞書機能を持つインターネット・サイトです。看護・介護の基本的な専門用語と共に、生活面で使われる語彙・表現を多数収録しています。

日本に暮らす外国人を応援するインターネットサイト「日本語でケアナビ」

日本語で **ケアナビ** NIHONGO de CARE-NAVI

いかがですか

日本に暮らす外国人が増えています。フィリピンなどの経済連携協定(EPA)締結で、看護・介護分野などで働く人も今後増えるでしょう。

「日本語でケアナビ」は、これに対応した日本語教育支援ツールです。「仕事で使える」、「気持ちを伝える」、「くらしに役立つ」日本語を、インターネットで学ぶことができます。

徳島県の市民グループは、国際結婚で来日し、ホームヘルパーの資格取得をめざす外国出身者の日本語サポートにこれを利用しています。病名・症状が日英両語で分かるので、一般の人が受診する時や健康管理にも役立ちます。

名古屋に住むあるフィリピン女性は、脳梗塞の友人を助けたいと思って介護の勉強を始めました。今では夜勤専門の介護士として施設で働き、入所者の容態を引継ぎ、看護師と打合せするなど重要な役割を果たしています。

分からない言葉がすぐ調べられる「ケアナビ」は彼女の頼もしい味方であり、日本の内なる国際化を強力にサポートしています。

PC <http://nihongodecarenavi.jp/>
携帯 <http://nihongodecarenavi.jp/mo/>